

# 自力解決を通して考える力を育てる指導の工夫 エリアカードを用いた授業

新発田市立外ヶ輪小学校  
六井 洋

## 1 ねらい

学級の児童には、自力解決の学習を行う際、以下の大きく2つの問題点が挙げられる。

- ◆課題から見通しをもてず、解決方法の手段を選択する段階でつまずく児童がいる。
- ◆課題を解決してもそれをどのように説明したり、発表したりするかで悩む児童がいる。

それらを解決するために、自分の解決の過程、つまりは思考の流れがわかる「エリアカード」(ワークシート)を使い続けることで順序立てた考え方が身に付いていくと考えた。

## 2 エリアカードとは

このワークシートは、5つの枠で仕切られており、大きくは児童が課題を解決する際に作業をする部分とそれを整理して発表のための説明の文を書く部分に分かれている。

### 今日の課題

まず始めに児童は課題をこのエリアに書く。ノートに課題文を書かせるのと同じで、書きながら課題内容を把握したり、大事なところにアンダーラインを引いたりする。

### 図・線エリア と 数・計算エリア

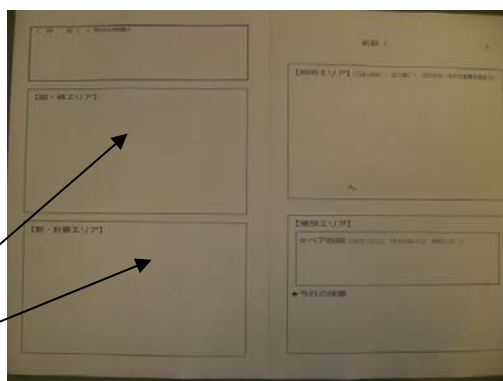
課題に応じて、児童は「図・線エリア」と「数・計算エリア」のどちらか(両方も可)を選択して記入する。「図・線エリア」は、課題を絵に表してみたり、数直線・線分図・図形に表したりして作業を行うスペースである。「数・計算エリア」は文字通り数の操作・変換や計算を中心に解決するスペースである。このように、自分自身で解決方法を選択させることで、「分からないからまず図にしてみよう」とか「計算でできそうだ」という見通しをもつことができ、教師もつまずきを見取りやすい。

### 説明エリア

解決したことを「説明エリア」に「はじめに」「次に」など順序立てて書いていく。これは、もう一度自分の解決の過程を整理していくと同時に、発表するときの原稿にもなる。

### 感想エリア

ここは、全体発表・ペア発表で分かったこと、疑問、自分と同じところを書き込む。自分の考え方の相違点を見つけることでより考えが深められると考える。また、その日の授業を振り返っての感想も書く。



## 3 エリアカードの成果

エリアカードを用いることで、自分の思考の流れが分かり、振り返りもできる。また、算数の単元で毎回用いることで、次第に解決のしかたが身に付いてきて、それが普段の学習でも活かされてくる。「こうやって解いていけばいいんだ。」という解決の見通し・道筋を学ぶ上で有効である。発表も原稿があることで自信をもって行うことができ、児童相互の意見交換につなげやすくなる。さらに、授業後に教師がワークシートを見ることで、学習中には気付かなかった児童のつまずきが見取れ、それを次時の指導へと生かすことができるよさがある。